

算 数 通 信

算数について発信します。疑問や気づきがあれば、声をかけてください。(新庄)

テーマ「一斉授業と『個別最適な学び』について」

算数という教科には、「既習の知識・技能や数学的な見方・考え方を働かせれば、新しい知識を自らつくり出すことができる」という特性(他の教科等にはないすぐれた特徴)があります。だから一斉授業でも、個別学習や自由進度学習などの「個別最適な学び」においても、「既習事項を使って、新しい知識を自らつくり出す子どもの姿」を引き出すことを目標とします。逆に言えば、一斉授業で数学的な見方・考え方を働かせ、新しい知識を自らつくり出しているから、個別学習や自由進度学習という学習形態になっても、個の学びが成立するということになります。だから、「わかればよい」「できればよい」という授業観から、算数の特性に合った一斉授業へ転換する必要があると考えます。

どのような学習形態をとっても大事なことは、「数学的な見方・考え方を働かせる」ことです。数学的な見方・考え方とは、次の通りです。

○数学的な見方とは・・・

⇒ 既習事項を使って問題を解くための着眼点を見つけることです。

○数学的に考えるとは・・・

- ・問題文を表した式が成り立つ理由を説明すること
- ・【まとめ】の前に、解決のための違う考え(バラバラに見える考え)に対して共通点を見つけること ⇒ 統合的に考える
- ・統合的に考えて見つけた考え方に対して、他の数字を当てはめたり数を増やしたりしても、その考え方が成り立つかを調べること ⇒ 発展的に考える

数学的な見方・考え方を働かせることに、もう一つ大事なことは、「協働的に学ぶこと」ができるかということです。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が言われています。これからの「学び」では、1人で全てを解決しようとせず、他者と一緒に問題を解決する力が必要です。また、自分が分からない場合は、だれかに助けを求める力も大切です。だから、ドリル学習をくり返して答えを出せるようになって、そのことに大きな価値はないと考えた方がよいと思います。一人で学習する「孤学」ではないのです。

そろそろ「ペアでしましょう」「1人でやりましょう」という教師の指示はやめて、必要に応じて子どもが選んでいくという体験の積み重ねが必要なのではないでしょうか。その体験が経験となったとき、自ら学ぶ子どもの姿が少し描けるようになるのではないのでしょうか。

次号で、統合的な見方とまとめの関係をします。